

高度生殖医療で子を得られなかった在留邦人女性の語りの構造

○中部学院大学 宮嶋 淳

[キーワード 代理出産、語り、スピリチュアル・ケア]

1. 目的

高度生殖医療のあらゆる治療的段階（IVF、ICSI、AID、代理懐胎）並びに養子縁組制度を経てもなお、子を得ることができなかつた在留邦人女性の語りの構造について報告する。当事者の語りの構造と生殖医療に関する社会的諸情勢を踏まえ、生殖医療を利用する当事者のケアをソーシャルワークが如何に成していけるのか、その視点とアプローチ、あるいは方法を体系的に検討し、「生殖ケア・ソーシャルワーク理論」の構築を目指すものである。

2. 視点および方法

(1) 視点

1978年に体外受精により子を得ることを成功させたロバート・ジェフリー・エドワーズが、2010年にノーベル生理学・医学賞を受賞し、高度生殖医療は推進すべき国際的な関心事となった。

わが国においては、2015年3月現在、政府・自民党プロジェクトにより「(仮称)特定生殖補助医療に関する法律(案)」が、議員立法として提案されようとしている。

ソーシャルワークにおいても、国際ソーシャルワーカー連盟が2008年に政策文書「国境を越えた生殖サービスに関する国際方針文書」を採択した。その理念は①女性の生殖能力の商品化は人権侵害である、②国境を越えた生殖サービスへの関与は、訪問国の事情に配慮しないと、搾取になる可能性がある、③法整備が進んでいない国々では、十分な事前のインフォームド・コンセントがなされない可能性があることに留意すべきとしている。

高度生殖医療のうち、「体外受精型代理母出産」に着目し、CiNii 検索でキーワード「代理母」「代理懐胎」「出産／喪失」でヒットする先行研究を概観してみると、これまでの研究は「代理母出産の是非」「国際動向」「海外における判例の分析」「代理母出産依頼者と受諾者の契約と関係」「生まれてくる子どもの福祉」に関するものが多く、その領域は法学・看護学・助産学・生殖医学にわたっていた。しかし、「あらゆる手段を講じても子を得られなかつた女性の声」を質的に研究した社会福祉学における成果は稀有であった。

(2) 方法

高度生殖医療並びに養子縁組制度を利用しても子を得ることができなかつた在留邦人女性に対し、母国語である日本語を介してインタビューを行うという方法により発話を得た。インタビューの語りをグラウンデッド・セオリー法に近似した方法で「コーディング」「名づけ」「構造化」「再ストーリー化」を行った。また、筆者の恣意性並びにバイアスを検証するため、IBM SPSS Text Analytics for Surveys⁴による形態素分析並びに構文解析を行った。

これらの発話分析を通して、女性の語りの構造を明らかにすることで、ソーシャルワークによるケアの焦点を明らかにすることを目指した。

インタビュー項目は、当該年度における日本生殖医学会や日本生殖心理学会の大会テーマや議論から得た知見をもとに以下のとおりとした。

【インタビュー項目】

- Q. 不妊治療をはじめるとき、実際の不妊治療の期間、かかった経費、ステップアップは？
- Q. 不妊治療中に感じたことは？ Q. 不妊治療を終結してからの期間、今のお気持ちは？
- Q. 不妊治療中の医療者や心理的社会的なサポートは？ Q. 不妊治療終結時のお気持ちは？
- Q. 「子どもを得るための他の方法」について Q. 不妊当事者との関わりは？

3. 倫理的配慮

現在、日本では代理出産は認められていない。しかし、精子・卵子・胚の提供並びに代理出産により子どもを得ることが法により認められている国々は多数存在する。本報告は法的に一連の高度生殖医療が認められている国でインタビューを行ったものである。また、インタビューに対しては、事前に本稿を E-mail で確認して頂き、学術的發展のためにインタビューの氏名・所在地等を匿名化することを条件として、データの公表を許可頂いた。

4. 結果

インタビューの語りを構造化した結果、図 1 が得られた。

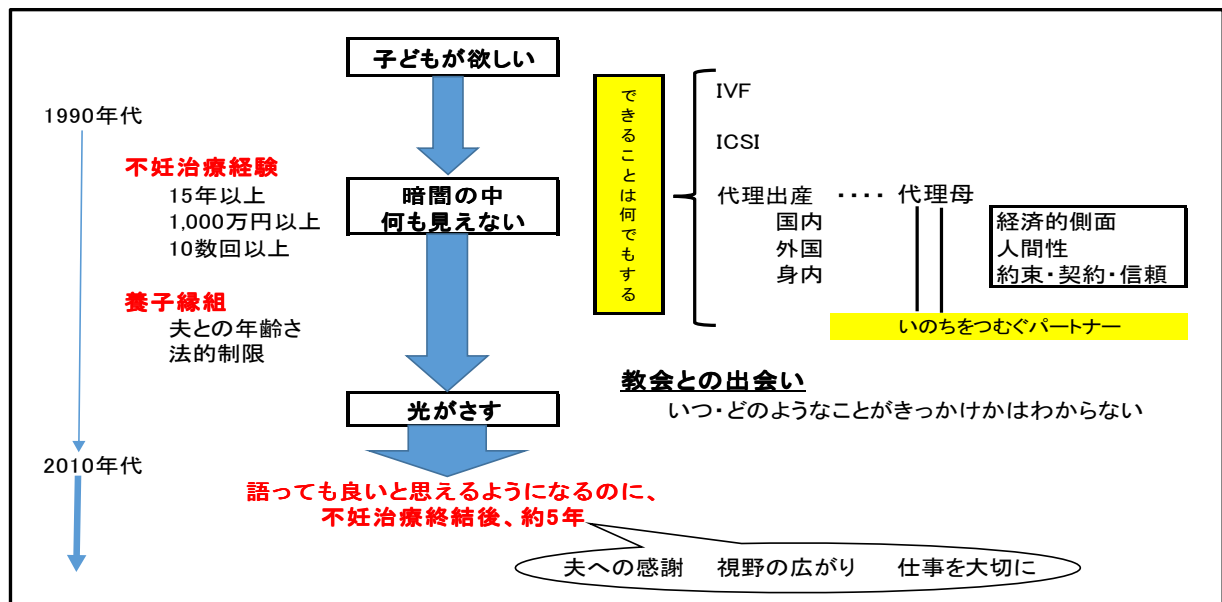


図 1 高度生殖医療で子を得られなかった在留邦人女性の語りの構造

図 1 を構成するために用いた基礎データは「資料 1 インタビュー・データと名付け」として示した。基礎データをもとに構築した軸足コード・テキスト群は「表 1 語りから抽出できた『語りの要点 (名づけ)』」として示した。IBM SPSS Text Analytics for Surveys4 により構文分析した結果の一例は「表 2 抽出後からのカテゴリ分析結果」として示した。

5. 考察

代理母出産に関する学術的見解は日本学術会議による対外報告「代理懐胎を中心とする生殖補助医療の課題—社会的合意に向けて—」(2008) で「部分的許容論」が示された。そしてこの度、法による規制へと踏み出される。学術会議が示した 4 つの論点 (①子の福祉、②代理母の位置、③子を持つ権利、④家に関わる日本の風土) のどれに対しても今後さらに議論が必要である。

本報告で明らかになったことは、(1)論点③に該当する女性の思いと論点②の立場にある方とを如何にマッチングさせていくのか、いのちを生み出すパートナーのあり方に第三者によるケア

が必要ではないかということである。そして、(2)論点③の権利の喪失に対するスピリチュアル・ケアが必要であり、スピリチュアル・ケアに関する社会資源の開発を、生殖ケアをめざすソーシャルワークは具現化していかなければならないのではないだろうかということである。

国外には 100 万人を超える在留邦人がいる。その地で婚姻し、出産を望むカップルも多い。その中には当然に不妊に悩み、究極的な選択をした後、日本に帰国するケースも稀ではない。高度生殖医療で生まれた子どもとそれを選んだカップルの **Human well-being** を念頭におくとき、当該課題に関するわが国の社会福祉学・ソーシャルワークにおける見解を用意していく必要がある。

なお、本研究は JSPS 科研費 26380790 の助成を受けて実施しているものである。

資料 インタビュー・データと名づけ

Q 1 : 不妊治療をするようになったきっかけや経過について。

A 1 : もう 20 年くらい前の話になるのですが。治療を始めたのが 1996 年なので、20 年くらい前のことですよ。私たちの場合は、体外受精が唯一の方法だったのですよね。私には特に問題がなかったのですが、私の夫、彼は再婚なので、私とは。それで、パイプカットの手術を受けていて、それで、その修復手術を、私と知り合って、子どもを持つということにしたので、したのですが、成功しなかったのですよ。それで、もう一回、やっぱり、すごく細かいパイプじゃないですか。だから、何回も手術するのよりは、可能性の高い体外受精を勧められて。そのときまだ 20 代だったので、「3 回に 1 回ぐらいのチャンスで成功するから」って言われて、それで体外受精を始めたのです。

【二人の出発には体外受精しなかった】

Q 2 : どのくらいの期間、治療したのか。

A 2 : 体外受精は 10 回以上した。1 回の採卵で 10 個ぐらい卵が採れて、それで夫の精子と受精させて、受精卵になるのが、そのうちの 7 個くらい。それで、3 個まで移植ができた。1 回で、もし着床すれば妊娠。もし着床しなかったら、凍結保存してある受精卵を、次回解凍する。また全部最初からだ、注射で刺激して、それで体外に取り出してっていうので、1 回 100 万円ぐらいするのです。だから、10 回やったうち、大概是凍結保存卵を使うので、治療は 10 回以上トライした。

【1 回の採卵で 10 個、1 回の体外受精で 3 個の卵を使い、後は凍結保存する】

Q 3 : 冷凍保存っていうこともやられていたということですね。卵子だけでなく、受精卵として凍結していたのですか。

A 3 : そうですね。やっぱりサバイバル・チャンスが、卵子だけだと弱いので。精子が問題ないようですけど。受精させた受精卵の形で凍結保存して。それで、夫も精子が出ないじゃないですか。だから、人工的に精子を取り出すことをやりました。

【サバイバル・チャンスとして、卵子も受精卵も凍結保存】

Q 4 : 精巣から取り出すということをされたのですか。

A 4 : そうですね。その精子も 1 回の治療分以上採れるので、凍結精子もありました。でも大概、そうね、凍結精子。でも、記憶では多分、凍結精子も使うけど、でもフレッシュのほうがいいというので。私が治療するたびに、夫も精子採取していたように思っていますけど。1 年に 2 回ぐらいですかね。もう、ほとんどうまく行かなかった。1 回だけですね、妊娠したのは。受精卵を、3 個受精卵を戻したときに、妊娠したのですけど、受精卵って子宮に戻すのですよ。でも、そこで着床して妊娠になれば良かったのですが、三つのうちのひとつが卵管に戻ってきて、そこで着床したので。

【体外受精では、凍結精子もフレッシュ精子も試みた】

Q 5 : 子宮外妊娠ですね。

A 5 : そうですね。それで、その卵管に着床した受精卵は手術して、それで、卵管も一つなくなっちゃうじゃないですか。それで、もうその後、子宮に戻すとかはできないので、妊娠しても、もう妊娠継続は無理じゃないですか、その時点で。それで、その他に妊娠しているのが、子宮に妊娠しているのがあったのですけど、でもうまく発達しなくて、その後流産の手術をして、そのときだけですかね、妊娠したのは。

【一度だけの妊娠は子宮外妊娠(卵管に着床)】

Q 6 : そうなのですね。何回もやられても、1 度だけだったのですね。

A 6 : その後も、これで妊娠することが分かったから、「じゃあ、また治療に挑戦してみる」みたいな感じで、その後もやりましたけど。トータル 10 年以上。

【妊娠がわかって、挑戦が続いた】

Q 7 : やはり 1 度妊娠したということで、やはりずっと続けてみようと。旦那さんと一緒に話をされて。

A 7 : 私たち、やっぱり自分たちの子どもが欲しかったので。そのときはドナーとか、アダプションとかは考えてなかったのですよね。それで、経済的にもすごく負担じゃないですか。1 回に治療費だけで 100 万円。その他に、オークランドにフライトチケット、2 人で行って。それで、宿泊施設に滞在して。それも 1 日、2 日じゃなくて、3~4 日、5 日とかの滞在になるじゃないですか。それを、10 回以上するって、結構経済的にも大変でした。

でも、ほとんどそれが全てみたいな感じだったので、私たち。経済的にすることが可能だったのですよね。最後の 2 回ぐらいは、政府が、2 回とか治療を無料でさせてくれたのです。

【経済的にも大変で、やっぱり自分たちの子どもが欲しかった】

Q 8 : 助成金か何かを出してくれたわけですか。

A 8 : その不妊治療をするか、人工授精をするか、何か選択があったのですが、でも政府のほうカバーしてくれる機会があって。最後の 2 回ぐらいは自己負担ではなくて済んだのですけど。

そのときネルソンに住んでいて、オークランドで不妊治療を毎回して、その後クライストチャーチにその先生の施設ができて、そこからだと車で行けるじゃないですか。クライストチャーチにも通って。その後クライストチャーチに移ってきたので、出費が少しは少なくなった。

でも、ネルソンにはなかったもので、オークランドに行かなくても、でもクライストチャーチに来なくては行けなくなることは変わらなかったのですけど。不妊治療のために引っ越してきたわけではないのですけど、クライストチャーチに。少しは負担がなくなったかな、経済的な。

【引っ越し先でも、不妊治療を繰り返した】

Q 9 : そのときも、このゲストハウス始められたってということですか。

A 9 : 夫はホステルをしばらく経営していて、私に会ったときには、もう既に経営していた。オークランドに、ここは少ないのですけど、オークランドは 100 人くらい泊まれる施設で、そのとき、夫はネルソンの人で、ネルソンでもこういう小さい宿を経営していて、それで、マネジャーを設けて、オークランドですごく大きい、ここより大きいホステルも経営していて。それがあったのでこの治療費負担ができたのも。

【ホステルの経営で治療費の負担ができた】

Q 10 : 不妊治療って、ステップアップするって、われわれよく言うのですけど。体外受精までで 10 年ですよね。その後のステップっていうか、顕微授精をされたりとか。

A 10 : 顕微授精は最初からでした。

Q 11 : 顕微授精だったのですね。

A 11 : はい。夫が、そういう方法でしか夫の精子を採取することができなかったのです。はい。

Q 12 : 卵子 1 個に対して精子 1 個をこう入れるという形の受精で。

A 12 : そうですね。そうじゃないと、すごくたくさんの精子が要るじゃないですか、自然に受精させようと思っても。そういうふうな選択はなかったのです。

【二人の場合は「体外受精＝顕微授精」だった】

Q 13 : 第三者から精子を提供してもらうという選択肢とかってというのは、考えられたこともあったのですか。

A 13 : もう自分たちで、自分たちの子どもが欲しいっていうので。それだけだったじゃないですか。でも、これだけやってきて、

全然効果がない。それで、だんだん少し変わっていききましたけど。ここに至るまで、5人のカウンセラーにも会って。あまり効果的だったとは思えないですけど、勧められて会ったし。自分たちでも、ハーブの、自然に体を受精しやすくなるように、ナチュラル・ハーブ・メディシンをトライしたり、漢方薬、それも似ていますが、そのようなことをしたりとか、あとは、はりとかにも行ったし。あと、ヨガとか。それで、全然効果ないじゃないですか、いつもいつも、失敗ばかり。それで、自分たちの子どもでなくても、例えば誰かの精子で、私の卵子と受精して、それで妊娠したら、自分たちの子どもみたいに育てていけるじゃないのっていうふうに、ちょっとずつ変わっていった。

誰かの精子とか、誰かの卵子とかって。でも、もうここまで来て、本当に他に手段がないのかってところまで考えてきて。そう。誰かの精子で、体外受精ですけど、また1回、2回トライしたかな。でも、成功しなくて。そのドナーの精子を選ぶときも、例えば血液型が一緒とか、日本だったら気にしそうですけど。そのようなのは全然関係なくて、A国では。インフォメーションも、来るんですけど、結構ドナーのほうから、例えばA国の、2人A国のカップルに自分の精子を使いたいとかって希望があったら、そのファイルは来ない。クリニックのほうから、この中から選んでくださいみたいな感じでファイルが来て、それで、特に基準とかは私たちの中ではなかったです。成功率が高い精子がいいとかっていうのはありましたけど、性格的なこととか、バックグラウンドとかでは、特にそんなに重視してなかった。

【全然効果がなく、失敗ばかりで、本当に他に手段がないのかってところまで考えて、ちょっとずつ変わった。】

Q14: 成功率が高い精子っておっしゃったけど、何かそういう説明とか、医療機関からはあるのですか。

A14: ありました。この精子から何人までは使えるとかって説明があって、実際に成功してるのです。

Q15: 「これはうまくいった精子ですよ」みたいな紹介があるのですか。

A15: はい。その後、それも成功しなくて。その後かな、アダプションも、全然血縁関係はないけど、でも生まれたての赤ちゃんだったら、自分たちの子どもとして育てていけるんじゃないって。全然、その不妊治療始めたときには、その発想はなかったですけど。クライストチャーチにもう引越してきてたので。クライストチャーチのチャイルド・ユース・ファミリー(=NZの子育て支援機関)に行って、自分たちのプロフィールを作って、それでどんな結果でいくのとか、説明会とかもあったし。ケースワーカー、ソーシャルワーカー、担当者を与えられて、その人と、その養子というか、アダプションに対して、どんなふうにしていくのかっていうのを話し合ったりして。同時に、それはA国国内じゃないですか。日本のほうにも問い合わせしてみたし。あと、もう海外。

【不妊治療をはじめた時には、アダプション(養子縁組)という発想はなかった】

Q16: 海外からっていうのも。

A16: そうですね。ロシアとか、ルーマニアとか。でも、アダプションで見たのは、その三つですかね。でも、うまくいかなかった。年齢制限がやっぱりあって。調べてみてアプローチしたわけではないんですけど、調べた段階で。A国のソーシャルワーカーの人と話をしているうちに、その人は、夫の年齢が高齢すぎて向いてないっていうふうに判断をして、それで、うまくその次に進めなかったのですよね。それとほとんど同時に代理母出産も。

【海外からのアダプションも検討した】

Q17: 代理母のほうも。

A17: はい。クライストチャーチのクリニックから、キャリアって何ていうのでした。代理母を与えられて、それで、その人と個人的に会って。クリニックで会ってたんですけど、でもだんだんお互い親しくなっていくように努力して、その人、最終的にはクリニックから与えられたんですけど、自分たちでも代理母になってくれる人を探したのですよね。私妹が2人居るんですけど、日本の妹に頼んでみたし、あと、夫に娘さんが2人居て、その1人がA国に居て、もう一人の人が海外に居て。お願いは無理だったんですけど。そのA国に居る娘さんに頼んでみて、でも、そんな「はい」ってすんなりは言ってはくれないうすよね。

私の妹は日本に居たので、それが本当にする気があったら、できないこともなかった。でも、保険の問題とか、やっぱり距離、日本とA国の距離とかも障害だったし。うまくいかなかった。私の妹は。それで、夫の娘さんは、2人子どもを生んでる

のですが、両方とも妊娠経過がすごく不安定で、入院することもあったし、結構大変だったのですよ、妊娠経過が。なので、お願いはできなかった。

その後、プレスに載せて、誰か返信してくれないかと待っていました。そうしたら、3人の人から返事が来て、3人以上来たかもしれないですけど、コンタクトを取ったのは3人。3人の人と会って、1人クライストチャーチで、2人オークランドだったと思うのですが。会ったのですが、なんかやっぱり、うまくいかなかった。

【3人の代理母候補と出会った】

Q18: 話をしているうちに、うまくいかなかったってことですか。

A18: 1人はクライストチャーチで、あと、ウェリントンとオークランドだったのかな。それで、ウェリントンの人は、奥さんはすごくサポートしてくれる意識はあったのですが。やっぱり旦那さんのバックアップがないと、なかなか引き受けられないと思うのです。妊娠期間って、やっぱり長いので。

自分たちの子どもじゃないし。そういうので、ぐいぐい進んでいくっていう感じではなかったので、会ったけど長い付き合いっていうふうにはならなかった。オークランドの人は、シングルマザーで、それで結構、何でも自分でどんどんするタイプ。妊娠しててもちょっと無理して何かするとかっていう感じの印象を受けて。それで、信頼しきれなかった、私たちが。

クライストチャーチの人は、お金の面で信頼できないのが浮かんできたので、話を進めなかった。「お金を貸して」みたいな感じで。家賃が払えないとかで、お金を借りに来たことがあって。「ノー」って言えないじゃないですか。なかなか。これでもし断って、彼女が手を引いてしまったら、私たち代理母を失うことになるし。でも、結局そういう駆け引きの中で、大事な命を預ける信頼を持ってないかなと思って。

彼女は、結構代理母をしたいという気持ちはあったのですが。自分のためにもそういうふうにも人助けをして、それで、自分でも満足したい部分が、誰かのために何かをしたっていう形が現れるもので。そうそう。したいっていうのもあったみたいなのですが。その1回のそういうことがあって。

【サポート意識はあっても、長く付き合えるとは思えない】 【お金の面で信頼できない】 【代理母をしたいという気持ちがある】

Q19: 代理母になる人たちの人間性、それって大きいわけですよね。頼む側としたらね。

A19: そうじゃなくても、すごく信頼できる人であっても、最終的に、やっぱり子どもを引き取るって言われたら、渡すしかないじゃないですか、私たちとしては。それが例え、夫と私の受精卵であったとしても。その人が出産したら、私たちは親じゃないじゃないですか、法的に。だから、信頼関係があやふやな段階で、やっぱり踏み出せないかな。それで、その後かな、クリニックから1人与えられて、その人クライストチャーチに住んでいる人で。ご夫婦で子どもが3人居て、それで、「何か自分が人のために役に立てることがあるのだったら、ぜひしたい」っていうので、代理母としてそのクリニックに登録していた人なのです。

Q20: ということは、一応クリニックが保証してくれているって考えてもいいのですかね。

A20: そうですね。はい。それで、1回目、2回目、妊娠はすごく簡単だった。全然問題とかはなくて、今3人子どもが居て、もう自分たちは子どもが欲しくない。でも、自分はまだ若いし、誰かのために妊娠して、子どもを9カ月おなかの中で育てて、もう自分は欲しくないから、生まれたらそれは誰かにあげる。

Q21: 育ちにくくなっているのですね。

A21: そうですね。はい。もっと使っていたかもしれないけど、ちょっと覚えてないのですが。でも、2回はトライできたのです。最初は2個戻したと思うのです。

【夫婦仲もすごくよく、自分たちの子どもを育てている】

Q22: 教会。

A22: 教会。神様の存在を求めようになって、どうして自分がこんなにも苦勞しているのに、結果が出ないのかとか、なんでこのことが私に起こるのか。そういうのっていつも・いつも頭の中にあって、でも答えて与えられなかった。それで、ずっとネルソンに居たときからも求めていた。なんでこういうふうにも、自分には子どもができないのかとか、あと、もし将来を

見えたら、子どもが居るのか、居ないのか、もしかしたら居ない人生を与えられていたのかとか。なんかそういうのを考えて。それで、クライストチャーチに来て、今のクリスチャンの本当の神様に会ったことになるのですが、その前にもいろいろ求めて、いろいろなところをさまよって。でも、結局答えは与えられなかったのです。それで、JCFを通じて今の神様に会って、それで、治療の最終段階、もうこれでほとんどできることは全部やって、それでもできない。それで、神様に委ねて、教会でも大勢の人が祈ってくれて、本当に全てを託して代理母出産の体外受精を試みたけど、それでも結果は厳しい状態が返ってきたじゃないですか。それでもう、これ以上しても子どもは得られないのだからって思って、諦めるとかじゃないんですけど、その状態を受け入れる。

Q23: 今考えられることを全てやってみたいなことです。

A23: そうですね。はい。

Q24: 自分でも努力されたし。そこに至ったのは、今から何年ぐらい前なのですか。

A24: 多分、治療をやめて5年はたっていると思うのです。

【失敗の果てに、神様の存在を求めるようになった】【もし将来を見られたら、子どもが居るのか、いないのか】【治療の最終段階で、神様に委ねて、代理母出産を試みた】【結果は厳しい状況になって、その状況を受け入れる】

Q25: カウンセラーに5人出会ったけども、あまり意味がなかったというふうにおっしゃっていたのですが。それは具体的に教えてもらってもいいですか。どのような理由なのか。

A25: ペースは1週間に1回くらいの間隔で会っていたのですが。やっぱり、私そのとき本当に絶望して、生きる望みとかってほとんどなかったし。もう、そのことにあまりにも心がとらわれていたので、夫の存在すら感謝できるような感じじゃなかったのですよ。もう、ほとんど絶望。生きている意味もないみたいな感じ。だから、そのカウンセラーの人たちに、私の気持ちを分かってもらえなかった。やっぱり、いろいろしてくれるのですが、でも、やっぱり体験っていうか、経験がない人がカウンセラーになっても、分かってもらえない。そういうのがやっぱりあって、私には、勧められるままに会って、セッション5回とか10回とかあるじゃないですか。その間に治療をして。それで、もし成功しなかったって結果が来たときに、やっぱりカウンセラーに言っても、希望とか助けとかって、もう結果は決まっているじゃないですか。妊娠してなかったってなったら、その後3回残っているの、カウンスルに行ったとしても、私には効果とか得られなかった。なんか、「こういうふうな気持ちを整えて治療に進めていったらいいんじゃない」って言うので、それで、私とそのカウンスルの人と一緒になって治療をしても、結局結果はこうなるじゃないですか。自分でも、そんなにストレスを感じないようにしたいとか、リラックスしてとか、いろいろありますけど。でもやっぱり、ストレスってどんどん増えていく。失敗が重なるごとに。

【本当に絶望して、生きる望みとかってほとんどなかった】【失敗が重なるごとに、ストレスってどんどん増えていく】

Q26: 絶望の中で、旦那さんの声も聞こえなくなってくるような感じなのですか。

A26: 夫はすごくサポートしてくれていたと思うのです。でも、子どもがあまりにも大切な存在だったので、感謝できなかった。夫に対してすら。それって、すごくひどい状態だったと思うのです。でも、もう子どもは与えられないのだからっていうのが、最終的に受け入れるしかない状態まで行って、それで、教会に通うようになって、それで、私は生きがいとか希望とか、なんで今のこの状態があるのか、いろいろそういうのを、いろいろ求めて、それで、今の神様に会って。それで、だんだん自分が変わっていった。それって、今までいろいろ宗教とかを日本に行つて、話を聞いて、厄払いを受けてとかやっていたときに。与えられなかった希望だったのです。これが不思議なことなのかもしれないんですけど、やっぱり私たちの信じる神様って、本当に唯一の神様だから、生きて、それで、2006年になるのですが、洗礼を受けて、それで、やっぱりそうすると、内側から変わっていって。状況は変わってないじゃないですか。私と夫は今も2人っきり。将来も2人っきり。それで、周りには子どもたちが居て、私の妹たちにも子どもが居て。状況は変わってない。でも、その神様を知ったのが、ターニングポイントで、今振り返ってみると、絶望していた暗闇のあの中に居た時期が、長く長くあったのですが、今はその穴の中には居ない。

Q27: 穴の中に居る感じなのですか。

A27: 穴の中に、もうほんと、光が届かないような深い穴の中に、落ちてしまったっていうイメージの絵が、長いことあったの

ですけど。でも、今はその穴の中には居ない。

Q28：光が差すところに出てきた感じなのですか。

A28：そうだと思うのです。それで、子どもが全てだったのですけど、与えられている恵みっていうのが見えてきて、それで、夫の存在とかもすごく重要視するようになって、今までずっと私を支えてきてくれた人じゃないですか。その人に感謝できなかったけど、今は感謝できるように、自分を変えられていった。

【洗礼を受けて、内側から変わっていった】【絶望し暗闇の中に居た時期が、長くあったが、今はその穴の中には居ない】

【光が届かないような深い穴の中に、落ちてしまったイメージ】【今はその穴の中には居ない。】【子どもが全てだった】【与えられている恵みが見えてくる】【夫の存在を感謝できるように、自分を変えられていった】

Q29：すごく大きな出会いだったのですね。神様とね。

A29：神様との出会いは、大きな出会いだった。

【神様との出会いは、大きな出会い】

Q30：その教会の中でも、そういうお話をされる機会とかもあったわけですか。

A30：いや、もう私、ほとんど絶望していたでしょう。ネルソンに居たときから。クライストチャーチに来て、それは決して変わってなかったの、誰も知り合いがいなかったの、新しく出会った人たちと親しくなっていくとするエネルギーは全くなかった。だから、自分のことを話す気にもなれなかった。分かってもらえないのは、もともと分かっていたし。思い切って、今までの経過を牧師に話して、それで、その中でだんだん心を許して話をしているという人が、1人だけ与えられて、牧師夫人なのですけど。その人が、本当によく話を聞いてくれて。本当に素直に心の内を打ち明けることができ、それで、毎回話した後に、いつも祈ってくれたのです。そんなのが続いて、神様のことをもっと知るようになって、それで、私が最初1人だけでJCF（教会のサークル）に通っていたのですけど、夫も来るようになって。日本語でのサービスなのですけど。でも、夫も来るようになって。もともと夫はクリスチャンだった。クリスチャンだったのですけど。今まで教会に行くっていうことはなかったの。夫がクリスチャンだったっていうことは、そのときに知った。それで、行くようになって。それから少しずつ、少しずつ、変わっていったかな。フォーカスが、子どもから恵みが見えるようになって、それで、夫のことも感謝できるように。なんて素晴らしい夫と与えられているのだっていうことに気が付いて。こういう試練を通していくと、すごく愛情が深まるか、絆が深まるか、別れてしまうか、あまりにもプレッシャーが大きくて。どっちかじゃないですか。クリニックでも、その破壊されるカップルは多いっていうのは聞かされていたけど、でも、私が本当にぼろぼろで、でもそれを諦めないで支えてくれた夫が居たから、ここまで来られたのだっていうことを知って。それで、子どもは居ないけど、でも、夫と居ることが楽しいって思えるようになってきて、それで、ここ1年とかです。今後の将来は、夫と一緒に大切な時間を過ごしていきたいって思えるようになってきた。私たちって、やっぱり年が離れている夫婦だから、普通に20代で結婚した夫婦が50年寄り添うっていう時間は最初から与えられてなかったのです。でも、この不妊治療で十何年も、そういう期間があつて、その大切な時間を大切だと思えなかった。その50年与えられてない少ない時間しかないのに、でもあまりにもフォーカスが子どもに行っていたので、大切な時間を大切だと思えなかった。でも、今は残された時間を、本当に2人で大切に過ごしたいっていうふうに、フォーカスが変わってきたから、子どもが居なくても、夫のために、夫が幸せな人生を送れるように、私を使っていきたいっていうふうに変わっていった。でも、ほんの1年とか前の話です。

【新しく出会った人たちと親しくなっていくとするエネルギーは全くなかった】【フォーカスが、子どもから恵みへ】

【大切な時間を大切だと思えなかった】【フォーカスが変わってきてから、子どもが居なくても、夫のために、夫が幸せな人生を送れるように、私を使っていきたいっていうふうに変わっていった】【ほんの1年前の話】

Q31：つい最近のことなのですね。2006年に教会に行かれるようになってからですから、結構な期間ですよ。

A31：こうやって不妊治療のこととかを、そんなに抵抗なく話せるようになったのも、治療をやめてから、今5年ぐらいたっているって言っているじゃないですか。それが、もし3年とかだったら、まだこんなふうに話せる状況ではなかったかもしれない。

まだやっぱり、子どもは欲しいっていうふうに思っていたし、子どもを持つてるお母さんとか、友達を見ると、やっぱりうらやましいなっていう思いは、かみ殺すことはできなかったし、でもその、この 5 年の間に、そういうのから夫のことをもっと意識するようになって、感謝するようになって、それで、子どものために人生を使いたって思っていたのが、夫のために私の人生を使いたって思えるようになって。でも、神様から与えられている一番のたまものが、今の夫だということを感じが付いた。

Q32：一緒に話を聞いてくれる人と、一緒に祈りをささげながら。

A32：はい。

【不妊治療のことを、抵抗なく話せるようになったのも、治療をやめて 5 年たってから】

Q33：そういう経験をされたのですね。

A33：でも、これって本当に神様が居なかったら、変わっていかなかったと思うのです。本当にリアルに居るっていうことをちょっとずつ体験してって、それで。もう日々の生活の中で、私の気持ちが変わっていったのかな。多分、かたくなな部分があったのですが、それがだんだんほぐれていった。個人的に、私すごく厳しい家庭で育って、父親が好きじゃなかったのです。それで、夫って本当に反対のものを全部持っているのです。

【本当に神様が居なかったら、変わっていかなかった】

Q34：お父さんとは全然違う。

A34：そう。だから、お父さんにさせてもらえなかったことを、全部夫がしてくれているみたいなことがあって。それで、でも、聖書では、両親を敬って一番先に言っているのですよ。でも、敬えとか、尊敬するって、頭でできることじゃないじゃないですか。心が入ってこない。だから、私の中でそれが変わってって、お父さんを許せない部分とかあったけど、でもそれを、許せるように変わっていった。感謝できるように変わっていった。お父さんも大変だったっていうのが、自分なりに分かるようになって。そう。それも結構長いことかかったのですが、でも、許して、それで、感謝できるようになってって、やっぱりそれ、一番、聖書で「敬え」、親を敬えって一番先に言っているから、それが本当に基本で。その次にいろんなリレーションシップが上に乗っかっていく。だから、基本がちゃんとしていないのに、その上に何かを築こうとしても、やっぱりうまく築いていけない。夫婦関係もその上に来るみたいな感じで。でも、その部分でうまく修正できて、私なりにいい和解ができた。別に断絶しているとか、そういうのはなかったのですが、でも私の中でそういう部分があって、それを正直に伝えることができたし、私の気持ちを本当に分かって……。

だから、この不妊治療とか結婚とかも、大きい問題だったのですが、うまい信頼関係っていうか、築けていなかった部分があって、話せなかった。両親には、最初から。かえって負担を掛けるし、私の立場に立ってもらいたいよりは、もしかしたら遠のくかもしれないみたいな。なんかそういうのがあって、しばらく言えなかったのですが、いろいろきっかけが与えられて、それで、最終的にはいい関係を築くことが、築き直すことができた。そう。それで、同時に夫のことも、すごく感謝できるようになってきたし、それで、そういうのをしながら、1年ぐらい前を振り返ると、フォーカスがそういうふうに変っていたかな。

【お父さんを許せない部分とかあったけど、でもそれを、許せるように変わっていった】【許して、感謝し、敬う】

【基本がちゃんとしていないのに、その上に何かを築こうとしても、やっぱりうまく築いていけない。】【私の気持ちを正直に伝えることができ、いい和解ができた】【築き直すことができた】

Q35：教会との出会いで、徐々に光が差してきたような感じでしょうか。

A35：別に洗礼を受けて、全てが変わったとは思えなかった。でも、洗礼を受けるようになって、でも、神様のことは知りたかったと思っただけで、毎回毎回教会に通うようになったでしょう。そうして、1人とか2人とか、牧師夫人、たった1人だったのですが、最初は。でも、何でも話をできる人が与えられて、それからもう一人、与えられているっていう感じで。それで、その中で祈ってとか、悩みを持っている人が私だけじゃない、私と同じ立場の人は居ないけど、でも、それぞれにいろんな問題を抱えているっていう人が居るってことを知って、その中で祈って、そんなのをもう重ねてって、それで1年と

か2年とか3年とかたってきた。その後、当時を振り返って、そのときに、「あ、光が見えてきた」という感じ。洗礼を受けて2年とか3年たっても、自分は光が与えられて、その光に向かって方向転換して歩いていったとは、そういう意識はまるっきりなかった。やっぱりまだ、絶望の痛みとかっていうのは深く負っていたので。でも、時が過ぎていって、後を振り返ったときに、今もそうですけど、振り返ったときに、私はあの穴の中にはもう居ないって思えるのは、光があつて、穴から出てきた自分があつたからじゃないですか。光をたどって歩いているっていうふうには思ってたとしても、その歩いている最中は。でも、3年なり、4年なり、5年なりたつた後、振り返って見たときに、今の自分は、あのときの自分とは違うって。そういうのが、もし見えたら、それは光があつたからじゃないですか。そうじゃなかったら、まだ穴の中に居るでしょ。

【洗礼を受けて、光に向かって方向転換して歩いていったという意識はまるっきりなかった】

【3年~5年たつた後、振り返って見たとき、今の自分は、あのときの自分とは違う】【光があつた】

Q36：景色が変わってくるわけですね。

A36：そうですね。そうすると、もっと大きいピクチャーが見えるようになってきたのかなって思えるかもしれない。逆に、今ここを手伝ってくれている方が、まだ知り合つて1カ月ぐらいの関係ですけど。彼、一人息子を20年前に事故で亡くしているのです。

そういう痛みも与える存在なのだって、子ども。だから、居れば、すごく幸せっていうわけではない。居ても、いろんな痛みを与えるとか、問題を与えるとかっていう存在。10歳ぐらいまでは、「かわいい、かわいい」でいいけど、でもそれは、いつか。みんな成人して離れていくじゃないですか。それぞれの道を歩いていくじゃないですか。そうなったときに、全部が喜びとは言えないということを知って。それで、子どもは私と夫には居ないけど、でも、私と夫はすごく愛し合っているし、すごく深い絆を築いていっている。この試練を通したのと、地震。2010年と11年に地震があつて、もう4年になりますけど。それも結構な試練だった。でも、夫婦って、そういう試練を通して深まっていくのだなんていうのが分かつて。夫が居るって、すごく感謝だなということが分かつたし。健康が与えられているとか、仕事が与えられているとか、今まで気が付かなかった恵みが見えてくると、世界も変わっていくんじゃないかなって。

【もっと大きいピクチャーが見えるようになってきた】【子どもは居ても、いろんな痛みを与える】

【全部が喜びとは言えない】【夫婦って、試練を通して深まっていく】

Q37：恵みが与えられているっていう感覚が「すと〜ん」と、落ちてくるのですね。

A37：与えられていたと思うのです、今までも。でも、全くそれを見えなくしていたものがある。長いこと。人生って、そんなに長くないっていうのを思うようになったし。もっと一日一日を大切に生きていきたい。それで、やっぱりこれも特権かもしれないですけど、神様に出会って、クリスチャンになったでしょう。そして、この世が終わっても、この世の人生が終わっても、天国で一生っていうか、ずっと永遠に生きていけるっていうのもっと知るようになって。例え夫と、この世の人生が終わって別れることになっても、でも、ほんのいつか離れているだけで、また天国で再会して、ずっと今度は一緒に居られる。そういうふうに見えるようになったし。あと、子どもも多分20人ぐらい天国で待っていると思うのです。

【今までも与えられていたと思う。でも、全くそれを見えなくしていたものがある】【子どもが多分20人ぐらい天国で待っている】

Q38：この世には生まれてこなかったけれども。

A38：うん。でも、受精卵で、卵子と精子って子どもとして思わないけど、でも受精卵になると、1人の子どもとして存在してくるじゃないですか。それって、人間の力じゃない。やっぱり神様の力で受精する。卵子の中に精子を人工的に入れても、全部が受精卵になるわけではない。やっぱりこれって、神の領域で受精卵になって、一人の人間として大きくなっていくのだと思うのです。それってすごくことで。私と夫には、人間の子どものとしてこの世と一緒に暮らせたことはなかったけれども、でも、天国に行ったときに、その子どもたちに会える。それを、すごく楽しみにできる。

【やっぱり神の領域】【受精卵になって、一人の人間として大きくなっていく】

Q39：楽しみですよ。顔は分かんないけど、分かるのでしょうね、きっと。

A39：ただ、イメージーションで言っているだけじゃなくて、本当に心から信じている。私も夫も信じている。それって、すご

く強いなって。だから、それも、その与えられている恵みの一つ。今まで見えてこなかった恵みの一つ。それって、私が変わってきたから見えることだと思うのです。状況は決して変わっていない。

人生ってこんなふうに試練ありますよね。自分が試練の中に居ると、自分だけが試練に遭っているみたいに思いがちですけど、でも、みんなブロークンなのだっていうのが分かる。みんなブロークンなのだけど、でも、それでも幸せで生きていけるのだから。条件が整って、物質的に恵まれてとか、そういうのを満たされなくても、幸せになれるのだから。それって、全員が分かるものではないかもしれないですけど、でも、私は本当にそういうのを、この試練を通して知ることができて、今はこの状況で感謝できて、幸せで居られるって、本当に神様が今まで一緒に居てくれたからって思います。

【本当に心から信じるって、すごく強い】【今まで見えてこなかった恵みの一つ】

表 1 語りから抽出できた「語りの要点（名づけ）」

| ID | 語りの要点(名づけ) |
|----|--|
| 1 | 二人の出発には体外受精しかなかった |
| 2 | 1回の採卵で10個、1回の体外受精で3個の卵を使い、後は凍結保存する |
| 3 | サバイバル・チャンスとして、卵子も受精卵も凍結保存 |
| 4 | 体外受精では、凍結精子もフレッシュ精子も試みた |
| 5 | 一度だけの妊娠は子宮外妊娠(卵管に着床) |
| 6 | 妊娠がわかって、挑戦が続いた |
| 7 | 経済的にも大変で、やっぱり自分たちの子どもが欲しかった |
| 8 | 引っ越し先でも、不妊治療を繰り返した |
| 9 | ホステルの経営で治療費の負担ができた |
| 10 | 二人の場合は「体外受精＝顕微授精」だった |
| 11 | 全然効果がなく、失敗ばかりで、本当に他に手段がないのかってところまで考えて、ちょっとずつ変わった。 |
| 12 | 不妊治療をはじめた時には、アダプション(養子縁組)という発想はなかった |
| 13 | 海外からのアダプションも検討した |
| 14 | 3人の代理母候補と出会った |
| 15 | サポート意識はあっても、長く付き合えるとは思えない |
| 16 | お金の面で信頼できない |
| 17 | 代理母をしたいという気持ちがある |
| 18 | 夫婦仲もすごくよく、自分たちの子どもを育てている |
| 19 | 失敗の果てに、神様の存在を求めるようになった |
| 20 | もし将来を見られたら、子どもが居るのか、いないのか |
| 21 | 治療の最終段階で、神様に委ねて、代理母出産を試みた |
| 22 | 結果は厳しい状況になって、その状況を受け入れる |
| 23 | 本当に絶望して、生きる望みとかがほとんどなかった |
| 24 | 失敗が重なるごとに、ストレスってどんどん増えていく |
| 25 | 洗礼を受けて、内側から変わっていった |
| 26 | 絶望し暗闇の中に居た時期が、長くあったが、今はその穴の中には居ない |
| 27 | 光が届かないような深い穴の中に、落ちてしまったイメージ |
| 28 | 今はその穴の中には居ない |

| | |
|-----------|--|
| 29 | 子どもが全てだった |
| 30 | 与えられている恵みが見えてくる |
| 31 | 夫の存在を感謝できるように、自分を変えられていった |
| 32 | 神様との出会いは、大きな出会い |
| 33 | 新しく出会った人たちと親しくなっていこうとするエネルギーは全くなかった |
| 34 | フォーカスが、子どもから恵みへ |
| 35 | 大切な時間を大切だと思えなかった |
| 36 | フォーカスが変わってきてから、子どもが居なくても、夫のために、夫が幸せな人生を送れるように、私を使っていきたいというふうに変わっていった |
| 37 | ほんの 1 年前の話 |
| 38 | 不妊治療のことを、抵抗なく話せるようになったのも、治療をやめて 5 年たってから |
| 39 | 本当に神様が居なかったら、変わっていかなかった |
| 40 | お父さんを許せない部分とかあったけど、でもそれを、許せるように変わっていった |
| 41 | 許して、感謝し、敬う |
| 42 | 基本がちやんとしていないのに、その上に何かを築こうとしても、やっぱりうまく築いていけない |
| 43 | 私の気持ちを正直に伝えることができ、いい和解ができた |
| 44 | 築き直すことができた |
| 45 | 洗礼を受けて、光に向かって方向転換して歩いていったという意識はまるっきりなかった |
| 46 | 3 年～5 年たった後、振り返って見たとき、今の自分は、あのときの自分とは違う |
| 47 | 光があった |
| 48 | もっと大きいピクチャーが見えるようになってきた |
| 49 | 子どもは居ても、いろんな痛みを与える |
| 50 | 全部が喜びとは言えない |
| 51 | 夫婦って、試練を通して深まっていく |
| 52 | 今までも与えられていたと思う。でも、全くそれを見えなくしていたものがある |
| 53 | 子どもが多分 20 人ぐらい天国で待っている |
| 54 | やっぱり神の領域 |
| 55 | 受精卵になって、一人の人間として大きくなっていく |
| 56 | 本当に心から信じるって、すごく強い |
| 57 | 今まで見えてこなかった恵みの一つ (←注) |

備考： 表中「赤＝良い」「青＝悪い」は、IBM SPSS Text Analytics for Surveys4.0 により分類されたもの

表2 抽出語からのカテゴリ分析結果

| カテゴリ | サブカテゴリ | 発話からの抽出語 |
|------|--------|----------|
| 良い | 喜び全般 | 天国で |
| | 良い | 抵抗なく |
| | 感謝 | 感謝し |
| | 褒め・賞賛 | すごくよく |

| | | |
|----|-------|--------------|
| 悪い | 不安 | エネルギーは全くなかった |
| | 凶報 | 中に、落ちて |
| | 批判 | ちゃんとしていない |
| | 悪い | 信頼できない、 見えない |
| | 落胆 | 絶望して |
| | 恨み | 許せない |
| | 効果が不満 | 効果がなく |
| | 不満 | 欲しかった |

備考： IBM SPSS Text Analytics for Surveys4.0 による抜粋